



## 「今週の一言」

- かつの校の『週予定』には、一週間の行事や会議等の予定の他に、職員共通の「今月の目標」と「今週の一言」を掲載しています。「今週の一言」は、私がこれまで読んだ本や研修会等で聞いたことを基に、職員の専門性向上につなげたいという熱い思いから始めました。

### 1 「子どもに教えるときには・・・」

- おだやかに、繰り返し、急がない、そして、口数を少なくすることが大切である。授業は、支援をすることよりも減らすことを心掛ける。最小の支援で最大の成果を上げる。

### 2 「子どもの水がほしいの意味には100通りある」

- 子どもの要望の言外に本当の願いや思いが存在する場合がある。また、子どもの行動や発言と本音は必ずしも一致しないことがある。観察をしたり、時には質問をしたりして、子どもの本当の思いを汲み取る。

### 3 「知識やスキルだけでなく、学び方を教える」

- 赤は渡ってはいけない。青は渡る、黄色は危険。では「青から黄色に変わりつつあるときはどうするか」に、子ども自身が考えられる力を付けようとするのが学び。学び方を身に付けた子どもは、自分でどんどん自分の学び方を深めていく。



### 4 「子どもたちが満足する愛情の量は一人一人異なる」

- 一日一回抱きしめられてもらうだけで満足する子どももいれば、10回同じことをされても満たされない子どももいる。一人一人に合ったえこひいきを心掛ける。

### 5 「言葉には温度がある」

- 温かい言葉は心を和やかにし、勇気づけてくる。冷たい言葉は心を傷付け、同時に絶望的にさせてしまうこともある。たった一言が人生を変える大きな力を持っていることを認識して、温かい言葉を使おう。

### 6 「ルールや約束事で縛るのではなく、心を通わせる」

- ルールではなく、方法（行動）を教える。ルールは気持ちをコントロールすることを学ぶツールであるが、ルールで縛ったり、強く言い聞かせたりするのは、子どもを早く変えたいという気持ちの表れであり、子どもとの関係が悪化することもある。子どもはルールよりもラポールに従う。



## ちょっと一休み 「電卓で遊ぼう」

- ・「生まれた月」を入力する。そこに「4」を掛ける。その数字に「9」を足す。次に「25」を掛ける。その数字に「生まれた日」を足す。最後に「225」を引くと、あなたの「？」が表示される。

### 7 「心の扉を開けるのは子ども」

- ・子どもの心の扉を開くには、子ども自身がハッとする気づきの体験が最も大切であり、大人の役割は説教や叱責によって無理やり扉を開けさせるのではなく、子ども自身にできるだけ多くの気づきの場を提供する。子どもが大人と1対1で向き合って得られる気づきよりも、友達から言われて得られる気づきの方が大きいこともあるので、対話的な学びを大切にする。



### 8 「見える評価は、見えない評価が土台となって、やがて見える成長に変化する」

- ・大切なもの（心情、思い等）は見えないが、大切に指導したものは子どもの姿に表れる。私たちは子どもの学ぶ姿から、見えないところに気付く「深い目」をもち、誰も見ていなくとも「自分の役割を果たせる子ども」を育てることを目指す。

### 9 「子どもの見方を変えて、子どもの味方になろう」

- ・困った子ども→困っている子ども
- ・子どもを変える→環境を変える
- ・なぜできないの→何に困っているのか
- ・～しかできない子→～あればできる子
- ・やる気がない子→やり方が分からない子
- ・一人の子の困り感→周りの子の困り感

### 10 「ほめるポイント」

- ・できて当たり前と思わないこと。列に並ばないときに注意するのであれば、並んだときにほめる。できないときに叱ったり注意したりするのであれば、できたときにほめる。ほめる手間を惜しむと、子どもの自尊感情が上昇する機会を逃す。ほめられることは蓄積するが、叱られたことは蓄積しないで慣れるだけである。

### 11 「自分の名前は最も気持ちのよい音（聞きやすい音）」

- ・人間関係は、互いの名前を呼び合うことから本当の意味にスタートである。人は親しみを込めて名前を呼んでくれる人に仲間意識をもつ。さらにお勧めは、子どもの名前を呼び時、「いつも元気な〇〇さん」と、子どものよいところや頑張っていることを名前の前に付けて呼ぶことである。



### 12 「人は教えられたことはすぐ忘れるが、自分で気付いたことはなかなか忘れない」

- ・気づきとやる気はコインの表裏のような関係である。自分で気付く、だからやる気になる。これこそ学びの出発点。やる気になった子どもの伸びしろは無限大である。子どもにやる気にさせることが私たちの役割である。